

2019年 第1回議会事務局研究会

参加報告書

林 晴信

2019年6月2日(日)
立命館大学梅田キャンパス

2019年6月2日(日) 14時~18時15分
立命館大学梅田キャンパス多目的室 参加者17名

1. 自己紹介
2. 「地方議会における女性議員の現状」
池淵佐知子(吹田市議会議員)・中西とも子(箕面市議会議員)
3. 「災害時の議会は・議員は~東日本大震災の経験から~ 議会BPOを考える」
福田利喜(陸前高田市議会議員)
4. 「第二議会構想」
岡田博史
5. 「議会事務局研究会10周年企画」
高沖秀宣・奥山興起

■報告及び所感■

「地方議会における女性議員の現状」

地方議会議員に占める女性の割合(H29・12月現在)は特別区議会(27.1%)、政令指定都市議会(17.2%)で、市議会全体では(14.4%)であり、まだまだ女性議員の数は少ない。ちなみに都道府県議会(10.1%)、町村議会(9.9%)。

吹田市議会(定数36名)では、10名(27.8%)と比較的高いのは、共産党が5名のうち4名、公明党2名全員が女性ということにもよる。なお、1991年では全体で2名(共産1・社会1)の7.7%ということからすれば、増えてきているとはいえる。

女性の進出を阻む要因としては、「子育て・介護をしながらの選挙活動」「宿泊を伴う視察」「夜遅くまでの議会・委員会開催」「子どもが病気になったとき」が実感として挙げられた。また、「視察の時の夕食会場でお酌するのを余儀なくされた」、「他人の手を借りないと子育てできないなら、議員になるべきではない、と言われた」、「一部の市職員・議員・支援者からセクハラを受け、不愉快な思いをしたことがある」「幹部職員等からパワハラを受けた」等々(吹田・箕面市議会というわけではありません)の報告もあるとのこと。

また議会としての女性議員の受入れ体制に十分か、という問題もある。託児室や授乳室、更衣室等の整備はまだまでである(西脇市議会には皆無)。「会議室を一時的に授乳室や更衣室にすれば良いではないか」というのは男性の発想である。わざわざ会議室を女性議員がいることによって授乳室や更衣室にしなければならないという心理的圧迫がある時点で、男性と女性は平等ではないということになるだろう。

西脇市の新庁舎建て替えて、議会棟の議論をしたとき果たしてそのような視点での議論があっただろうか。障がい者についての対策等は講じられたが、女性が参画しやすい議会(ハード面)での議論は皆無だったのではないだろうか。遅ればせながら、その視点での議論が必要だと思う。例えば、更衣室兼授乳室を作り、空いているときに会議室としても使用できる等。(会議室を授乳室にするのではなく、授乳室を会議室にする)

意見交換の中で、男女平等を訴えている女性候補が「女性の視点で~」「子育て支援重視~」というのは違和感がある、との女性会員からの意見もあった。確かに「女性の視点で~」などという時点で「男女間の差異」を強調することになって、それは男女同権、男女平等の

観点からはおかしいことになるかと改めて気づかされた。私も今までは意識もしなかったことなので、意識改革とはそんなところから変えていかないといけないのだろうと思った。

「災害時の議会は・議員は～東日本大震災の経験から～ 議会 BPO を考える」

実際に東日本大震災を経験した陸前高田市議から、経験に基づく話を聞くのは貴重だと思う。

3月11日、午後2時46分、陸前高田市議会では3つの常任委員会の最中に地震が発生。すぐに委員会は散会となったが、議員の動きはバラバラで自宅へ戻った者、庁舎内に残った者様々だった。発生後40分で津波が市街地を襲い、定例会は自然閉会。2名の議員が避難誘導中に津波に巻き込まれ命を落とすという悲劇もあった。自然閉会なので、予算は不成立、執行もできないということで、3月28日、避難先の市内の小学校で臨時議会を招集、とにかく未成立の予算案を議決した。7月28日に臨時議会を招集するも、議長が逝去（心労と医療体制も整わない中、持病の治療ができなかったからかもというお話でした）、8月19日に再度臨時議会を招集して議長を選出。9月に入り、任期満了が過ぎていた市議会議員選挙を施行（6ヶ月特例）というのが大まかな震災直後の議会の流れである。

震災後の議員の動きとしては大別して3つ。地域が被災した議員は、地区コミュニティの中心となって救援活動やまた地元消防団としても活動。自宅が被災した議員は避難所等で中心的な活動を行った。しかし、地域も自宅も被災しなかった議員は、どうしたらよいかかわからず身動きが取れなかったという。

避難した住民からは、「議員が何をやっているのか一向に見えない」「避難所まわりもしないのか」といった声が寄せられたという。議員たちからすれば、全員で行けば大名行列のようで非難もされるし、という意識も働いたという。

そういった反省から、陸前高田市議会では「議会災害対策行動マニュアル」を策定。西脇市議会でも一応災害対応マニュアルはあり、内容自体は同様だが、恐らく議員の意識は雲泥の差だろうと思う。

今後の課題としては、通信が機能しない場合の連絡手段、大規模災害時の参集方法（登庁は可能なのか）、情報の共有手法、議会閉会時の対応などだそうである。

また今後へ向けて、災害発生時に議会としてやるべきことは何か、ということで、災害発生直後の救援活動やその後の災害調査活動等議員としてどのような活動が望まれるか、地域優先か全市的なものが優先か、議論をしていくとのこと。

西脇市議会も大雨洪水による災害はある程度頭の中にもあるだろうが、地震による大規模災害はあまり意識が向いていないように感じる。災害訓練含めもっと真剣に向き合うべきではないかと思う。

「第二議会構想」

以前に案を示したが、さらに研究を深めた提案があった。

まず大きく変わったのが、第二議会を現行の議会（便宜上、第一議会と呼ぶ）の附属機関とする点だった。私はこの点に関し、附属機関というと諮問と答申の関係になり、第二議会がどこか従属的扱いになりはしないか、と疑問を呈したが、制度設計者からは「これは従来の附属機関とは名前は同じだけれど、実質的には違うものである」と説明されたが、なかなか

か納得はしづらいのではないかと思います。また第二議会の議員を選挙で選ぶことに関しても、会員の中でも「選挙で選ぶ必要があるのか」という意見と「選挙で選ぶということが画期的である」という意見があった。第一議会の選挙と同じ日程で行う選挙となるが、第一議会は公職選挙法の縛りを受ける選挙であり、第二議会はその縛りを受けないというように、現場の混乱も考えられる。まだまだ叩き台の段階だが、いま少し制度設計を煮詰めないと公表できないのではないかと思いますし、第一議会の附属機関とするならば、第一議会の議員の理解を得ないと執行できないので、非常に難しいだろうと思った。ただ第二議会で行おうとしている内容の中には第一議会でも取り入れられるものが多分に含まれているので、それを第一議会のほうで行うことも併せて考えるべきではないかとも思う。たとえば、ICTを活用した会議や情報発信、会派拘束を受けない自由な議論、男女比率や年代の偏らない議会構成、首長追認機関では無い二元代表制の確立等々である。現行ではできていないから、第二議会という発想になるのだろうが、これは現行の議会に突きつけられた課題でもあるように思う。

「議会事務局研究会 10 周年記念企画」

10 周年記念シンポジウムを令和元年8月31日（土）13時15分～17時の日時で行うことが決定。場所は大阪大学中之島センター。

また研究会 10 周年記念出版物として「令和時代の議会事務局職員必携」（仮称）を出版する意向があるので、会員への執筆依頼があった。